

Minuma Shun Sai

見沼・旬彩

2021-22年冬号 vol.18



黑白洋蘭園

胡蝶蘭は6ヶ月間、種苗会社で培養(クローン栽培)し、台湾で1年4ヶ月栽培して、黑白洋蘭園に戻します。その後6ヶ月低温処理すると花芽ができ、開花が始まり、培養から開花するまで、約2年4ヶ月かかります。このリレー栽培のバイオ技術を黑白社長が開発しました。同一商品が一年中、開花が可能になり、常時7万鉢の長持ちのする胡蝶蘭の販売を行っています。最近は胡蝶蘭のエキスをもとに化粧品「彩華のワルツ」の販売を行い、今後東南アジアへ輸出を考えています。 見沼区染谷1-133 TEL.048-685-2211



▲黑白秀之社長と胡蝶蘭化粧品
「彩華のワルツ」

上山口新田の米づくり・水田への応援活動

応援する会の活動も4年経過しました。

2017年6月、応援する会の副代表の西野輝久氏から、地区内に耕作放棄地が広がりつつあるとの「問題提起」がなされました。

この提起を踏まえて、2018年4月「上山口新田の米づくり・水田を応援する会」を結成し、参加・ご協力いただける方を募り、以来4年が経過しました。

2021年は、「応援米」を購入いただいた方が22名

2021年の「援農活動」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から参加人数を5名程度とせざるを得ませんでしたが、応援米の購入者が22名、申込口数は46口、応援金の合計額は、230,000円でした。

中村農園

春岡小の西隣にあるおしゃれな個人直売所です。旬の野菜を一年中取り扱い、隣の畑やビニールハウスで作るトマト、ミニトマト、キュウリ、カブ、ほうれん草のお馴染みの野菜や市が推奨するヨーロッパ野菜（フェンネル、ビーツ、チコリ、ロマネスク）等々、種類豊富で彩り鮮やかな野菜が並びます。

3世代で営み、じいちゃんの作る長芋、里芋、サツマイモ、季節の果物も美味しいと評判です。また近くの丸ヶ崎地区で作るコシヒカリは5キロ入りがお手頃で人気です。

店内には手作りの小物を販売するコーナーもあり、アットホームで楽しい店作りに朝から近隣の方だけでなく車でご来店の方で賑わっています。

「さいたま市総合振興計画」の表紙に



米づくり・水田への応援活動の中で、上山口新田の「都市と水田のコントラスト景観」のすばらしさが認められ、2021年3月に策定された「さいたま市総合振興計画」の表紙を飾る景観地区となりました。

活動する市民団体が3団体に

また、2021年度からは、この地域で活動する市民団体として「沼ランド」が新たに加わり、これまでの「見沼ファーム21」とともに、市民の応援活動団体が3団体となりました。



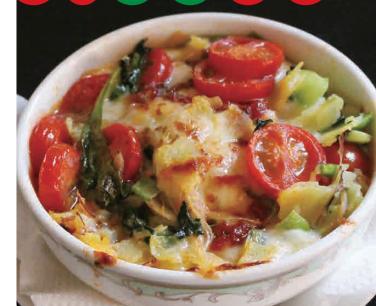
▲店外観

▲左から松井さん、熊谷さん、中村さん

見沼区春岡2-28-3 TEL.048-684-4421

営業日時:水・木・土・日 10:00 ~ 14:00

冬の野菜料理



小松菜・さつま芋のミニピザ

冬野菜の小松菜は鉄分・カルシウム等多くの栄養が含まれていて、冷凍保存が簡単。水洗いし、水分を取り除いた後、1~2cmに刻み保存袋に薄く平らに広げて冷凍。必要な分だけ簡単にかいて使います。

さつま芋はスライサーで水の中に放し、10分ほど晒します。水気を切り蓋をして中火で5分位で冷凍小松菜を適量入れ、塩・バターでピザベースを作ります。

耐熱食器にピザベースを敷き、上にスライスタマネギをちらし、トマトケチャップ、好みのとろけるチーズをタッピリ載せてオレガノスパイスを忘れずに散らします。トマトスライスをあしらえれば更に食欲が増します。

2021年度 年末農産物即売会について

日時:2021年12月27日(月) 10:00 ~ 13:00 (雨天決行)

場所:さいたま市役所東側ひろば

さいたま市内の青年農業者が育てた正月用の新鮮な農産物の即売会を開催します。人気のあるシクラメン等の季節の花や、目頃見かけない珍しい農産物など、色とりどりに販売されます。おせち料理での縁起物、さいたま市特産の「くわい」も販売します。また、農家さんが掲いたのし餅も販売の予定です。



見沼のお店紹介!

レストラン「キットチエント」

さいたま市見沼区深作にある畑に囲まれた暖炉のある一軒家レストランです。肉の挽き方からこだわったハンバーグステーキを中心にグラタン、オムライス等気軽に食事ができる洋食店です。全ての料理を一から手づくりするため時間がかかることが多いですが、リーズナブルな値段で提供しています。料理は100%オリジナルです。パンは粉から練り上げ、米は自家精米です。自家栽培野菜を中心に春夏秋冬、季節により旬の野菜を使ったサラダ、前菜、グラタン等、一年を通して季節を感じられる料理を心がけています。又ランチメニュー、ディナーメニューではコーススタイルで構成していますが、単品でのご注文も可能です。指扇にある農園(実家)の栗、果物ではラム、梅、レモン、オレンジ、ザクロ、サクランボ等を栽培しています。これらは栗のアイスクリームにしたり、ピールや漬物にして、パン(6種:イチゴ、ラズベリー、クルミ、ブドウ、オレンジピール、ウメ)に混ぜ込んだりしています。宅配も行っています。

ハンバーグステーキ(デミグラス、和風、ガーリック、トマトソース)、オムライス、ナポリタン、各700円、牛フィレ角切りステーキ(100g)1,000円、昼は1,650円(ランチメニュー:地元野菜のサラダ、じゃがいものスープ、ハンバーグ(鮭)、栗のアイスクリーム)より、夜は2,090円(ディナーメニュー)です。

見沼区深作1-13-14 TEL.048-682-5693

定休日:月曜 営業時間:ランチ11:30 ~ 14:00 (終了時間15:00) ディナー:17:30 ~ 20:00 (終了時間21:30)



▲カウンターと調理場



▲柔らかく美味しい手製のハンバーグ



▲果物を混ぜ込んだ手製のパン



▲石田ご夫婦

パン工房「魔女のコッペパン&魔女のコッペパン」と見沼野菜

ディボーネクラフト(株)の社長 諸田三比呂さんは、自ら仕事場に入り製造とともに新しいパンを創造し商品化を行っています。一番新しいパンは発芽玄米を練り込んだ「ご飯食パン」を開発し販売しています。食感はモチモチし大変美味しく評判がよく売っています。

「コッペパン」とは“美味しいおまじない”です。美味しい30種類のパンが、毎日社長の諸田さんにより焼かれています。美味しい匂いといろいろな形のパンが並んだ店内には常に客が入れ替わり、無人になる時が無い程です。他に人気のコッペパンにはジャムだけでなくハンバーグや地元の見沼野菜等、手作り自慢の具材がサンドされた品が数々あります。ただ数に限りあり、早めの来店がお勧めです。

素敵な人形の“魔女”が招くオープンテラスにはテーブルと椅子が置かれていてイートインとランチも戴けます。

週毎の日替わりランチはいろいろなパンを中心に見沼野菜のサラダ付き950円。コーヒー 380円です。

「さいたまヨーロッパ野菜研究会」 飯田秀樹さん

ここ数年注目を集めている「さいたまヨーロッパ野菜研究会」のメンバーでもある飯田秀樹さん。農業とは無縁の環境で育ちましたが、中学時代に食料自給率や中国製冷凍餃子の農薬混入が問題になる中で、「食」に対する危機感から農業に関心を持ちました。その後、農学部に進学。農業と地域の結びつきに魅力を感じ、就農の道を選びました。

鹿児島の農業法人で3年を過ごし、地元のさいたまに戻って独立。現在は見沼区 笹丸と岩槻区 慈恩寺であわせて約5反5畝の畑で野菜を栽培しています。今は土作りを研究しているという飯田さん。この時期はオレンジカリフラワー、ラディッキオ、トレビーゾ、フェンネルなどのヨーロッパ野菜と、これから季節に欠かせないミニ白菜も作っています。飯田さんの野菜は右記で販売しています。



▲30種類のパン



▲パン工房



▲諸田三比呂さん

見沼区南中丸316
(第二産業道路沿いヤマダ
電機の東側)
TEL.048-685-3013
営業時間:10:00 ~ 18:00 定休日:月、木曜



▲オレンジカリフラワー



▲ラディッキオ



・ヨロ研カフェ:岩槻区本町6-1-2
にぎわい交流館いわつき内(人形会館の隣)
・マルエツ:東門前店 (TEL.048-687-2255)
大和田店 (TEL. 048-685-7000)
・ヨークマート:南中野店 (TEL.048-688-1301)
ハレノテラス東大宮店 (TEL.048-686-3122)



▲飯田秀樹さん

MINUMA New Face/

新人農家「小澤将伍イチゴ農園」

2020年3月埼玉県農業大学校露地野菜専攻(イチゴ等)卒業後、約1年間吉見町のイチゴ農家(露地/水耕栽培)の栽培方法を学ぶ。現在、さいたま市農業振興事業/農業後継者育成事業を活用し5棟のパイプハウス(250坪)で6,000苗を栽培し、JAさいたま木崎ぐるめ米ランド、JAさいたま三室ぐるめ米ランド、JAさいたま尾間木ぐるめ米ランド、ヤオコー上木崎店等で販売しています。将来イチゴ狩りや収穫体験を計画しています。

取扱品目:イチゴ(トチオトメ、ヤヨイヒメ、ベニホッペ、アマリン、白いちご)、露地野菜(ブロッコリ、キャベツ、ナス、ホウレンソウ、ジャガイモ、ハクサイ)



▲小澤将伍さん

見沼区蓮沼1203 水・日定休日 12月~5月(14時~17時)



野外アート「野良の藝術2021」—『鎮魂と再起』



▲舞踏家の蒼浩人さん

「社会藝術/ユニット・ウルス」は、2016年から見沼たんぽ地域で、農とアートの結合を理念に『野良の藝術』・野外芸術活動を5年間にわたり開催しています。

2021年秋の芸術活動として『鎮魂と再起』をテーマに「ファームインさぎ山」で開催しました。

キュレーターの根本賢さんなどが運営企画し、代表の吉田富久一さんを中心に8組のアーティストの作品が非日常の芸術空間を現象させてくれました。その作品群の中で舞う舞踏家の蒼浩人さんの「白さぎの舞」が不可思議な時空を醸し出していました。

「首都近郊の農地で芸術活動をすることが、将来の環境保全や都市計画に大きな影響力を持つ。」とする根本さんのお考えに、大いに共感するとともに、未来への可能性を感じました。

Information

ガイド ツアー

令和4年初詣ツアー “二つの富士塚から氷川女體神社へ”

令和4年1月3日(月) 9:00集合・東浦和駅前広場
解散13:30 東浦和駅前

「二つの富士塚」に登拝し、「東沼神社」・「木傘神社」・「氷川女體神社」にお参りして、令和4年のご多幸を祈念します。※マスク必着「ディスタンス」を保って少人数グループで静かに参拝。15名募集(3グループで)コース:東浦和駅前→木曾呂富士塚→東沼神社・富士塚→大崎公園(昼食)→木笠神社→氷川女體神社→芝原小→東浦和
参加費:500円(昼食・飲み物持参)

お申込み:見沼たんぽ地域ガイドクラブ
北原ガイド:TEL.090-2675-1684 FAX.048-834-5731
メール: minuma.farm.kitasaku@ever.ocn.ne.jp



▲東沼神社の富士塚

今号に掲載された、見沼たんぽ地域のお米・野菜・果物・花木 直売所等マップ



市民が応援する見沼たんぽ地域での人と環境にやさしい都市農業の広報誌 **「見沼・旬彩」2021-22年 冬号 vol.18**

発行: 未来遺産・見沼たんぽプロジェクト推進委員会

http://minuma-miraiisan.jp e-mail : minuma@minuma-miraiisan.jp
バックナンバーはホームページよりご覧になれます。

編集: 見沼農業・応援連携部会 / デザイン・印刷: 有限会社アームズ
発行日: 2021年12月5日

We
Love
Minima

この見沼農業の応援連携・季刊誌「見沼・旬彩」は、公益財団法人 サイサン環境保全基金様、公益信託 武藏野銀行みどりの基金様、からの助成金で印刷・発行しております。